

宮古恵風支援学校

研究テーマ

「学習指導要領を踏まえた授業づくり」
～授業に生かす評価のあり方～

1 全体研究

(1) 研究の目的

前次研究の成果である授業づくりの手順を継続しつつ、学習評価の視点を加えた取組を行う。
ア 観点別学習状況の評価の具体的理解と実施
イ 指導と評価の一体化をめざした授業づくり
・児童生徒の学習の改善 ・教師による指導の改善 ・学校全体としての教育課程の改善

(2) 研究の内容・方法（二年度）

授業実践を継続し、育てたい資質・能力を明らかにし、教育課程の見直しを含めたカリキュラム・マネジメントを進めること。学習評価は、文言を正しく解釈し、活用すること。

学部ごとの取り組みとする。授業づくりのベースは、国語または算数/数学とし、他の教科等にも取り組みを広げる。

2 各学部研究

(1) 小学部

観点別学習状況の評価の視点を取り入れた授業づくりシートの作成を継続した。国語や算数の個別が主になる学習場面だけではなく、体育や音楽といった全体の学習場面でも授業づくりシートを作成した。話し合いをもつことで評価規準/基準の作成について、複数の視点から意見を出し合い、具体的に記入することができた。各教科等を合わせた指導でも作成し、現在の様式では記入しにくいという意見が出たが、一つの教科の目標に絞って書くことで、最も達成したい内容や評価基準を意識しながら授業実践ができた。合わせて教師間で児童の評価基準を共通理解しながら授業を進めることで、評価する姿を明確に意識しながら授業実践ができた。また、対象児童が達成できそうな学習内容などについてアイデアを出し合い、授業改善につなげることができた。

(2) 中学部

授業づくりシート、授業づくりシート【次の授業に向けて】、評価シートを活用した授業実践

を継続した。研究会の柱として、「国語」（全体授業研究会）「音楽」、「作業学習」の3教科で取り組んだ。授業づくりシートの単元の評価規準を学部全体で統一したことで、指導案内と同じ様式で学習指導要領から適切な文章を用いながら、シートを作成することができた。評価シート記入時には、個別の指導計画の目標一覧や年間指導計画を合わせて回覧したことで教師間での共有や意見交換が有効にでき、授業改善ができた。また、各教科等を合わせた指導である作業学習の授業を通して、どの教科を合わせているのかを授業づくりシートに明記することとした。評価シートに記入するときには、どの教科の目標が達成できているのかを意識しながら記入することができた。個別の指導計画の評価をするときや指導要録を記入するときにも活用できた。

(3) 高等部

授業づくりシートを活用した授業実践を継続して行った。研究日には、学習指導要領や年間指導計画を確認しながら、次の単元へ向けた授業づくりシートの作成に取り組んだり、教科ごとのグループに分かれて評価規準/基準の立て方について共有したりする場面を設定した。共有した内容から、PDCAサイクルを基本とする、指導と評価の一体化を目指した授業づくりを行うことが大切であると確認した。授業後、教師間での振り返りを即時に行うことで、細やかな変化や今後に向けた改善点などを共有することができた。また、「生徒が本時に何を身に付けたらよいか」を明確にすることで、生徒の成長の様子や評価を具体的に記入することができた。

3 講演会

演題：学習指導要領を踏まえた授業づくり
～観点別学習状況の評価のあり方～
講師：東北福祉大学 教授 大西 孝志氏
期日：令和5年8月1日（火）
参加者：70名

4 刊行物

研究集録をホームページにて公開